

第2期計画 量の見込・確保方策の算出方法

事業名	量の見込み算出方法	確保方策	解説
教育・保育 1号認定	談社:作業の手引きにより算出 R2:324人 R3:319人 R4:309人 R5:307人 R6:305人 直方市:補正 R2:648人 R3:638人 R4:618人 R5:614人 R6:610人	談社:認可定員(保育所・幼稚園・認定こども園)をこれまでの利用状況を勘案し振り分け。 930人 直方市:補正(認定こども園1園、私立幼稚園1園(旧制度)、私立幼稚園6園(新制度 予定)の総定員で算出) 713人	
教育・保育 2号認定	談社:作業の手引きにより算出 R2:1,175人(学校222人 保育953人) R3:1,159人(学校219人 保育940人) R4:1,120人(学校211人 保育909人) R5:1,116人(学校211人 保育905人) R6:1,112人(学校210人 保育902人) 直方市:補正 R2:851人(学校161人 保育690人) R3:840人(学校159人 保育681人) R4:811人(学校152人 保育659人) R5:809人(学校153人 保育656人) R6:807人(学校153人 保育654人)	談社:認可定員(保育所・幼稚園・認定こども園)をこれまでの利用状況を勘案し振り分け。 1,149人 直方市:補正(認定こども園1園、市内13保育園の2号総定員で算出) 755人	
教育・保育 3号認定 0歳児	談社:作業の手引きにより算出 R2:269 R3:263 R4:258 R5:252 R6:246 直方市:補正 R2:161 R3:158 R4:155 R5:151 R6:148	談社:認可定員(保育所・幼稚園・認定こども園)をこれまでの利用状況を勘案し振り分け。 204人 直方市:補正(認定こども園1園、市内13保育園の3号0歳児 総定員で算出) 264人	
教育・保育 3号認定 1・2歳児	談社:作業の手引きにより算出 R2:534人 R3:532人 R4:521人 R5:511人 R6:501人 直方市:補正なし	談社:認可定員(保育所・幼稚園・認定こども園)をこれまでの利用状況を勘案し振り分け。 574人 直方市:補正(認定こども園1園、市内13保育園の3号1・2歳児 総定員で算出) 411人	
時間外保育事業	談社:作業の手引きにより算出 直方市:補正なし	談社:2号・3号の量の見込みに、現在の利用者割合である36%を乗じて振り分け。 直方市:補正 現状希望者全員対応可能であるため、量の見込と同数で計上	
放課後児童健全育成事業	談社:小学生へのニーズ調査より小学生が学童保育を希望する割合×児童の人口推計で算出 直方市:補正なし	談社:箇所数×40 直方市:補正なし	談社:手引きによる算出(5歳児を対象とした算出)では、ニーズが388人から340人なのに対し、30年度の実績は774人で大きな差があった。ニーズ調査より、放課後を過ごす場所の希望として自宅や習い事などを選択した人が大多数で、学童クラブで過ごすことを希望した人は2割程度であることを考慮した結果、小学生のニーズ調査で得た利用を希望している人の数がそのまま学童クラブの量の見込みと考へ算出。
子育て短期支援事業 (ショートステイ)	談社:作業の手引きにより算出 直方市:補正なし	談社:第1期と同内容とする。 直方市:補正なし	
地域子育て支援拠点事業	談社:作業の手引きにより算出 直方市:補正なし	談社:30年度実績により算定。 直方市:補正 現状希望者全員対応可能であるため、量の見込と同数で計上	
一時預かり事業 (幼稚園)	談社:30年度実績の利用回数(実績/幼稚園在籍児童数) 32回×1号・2号(教育利用)の量の見込み 直方市:補正なし	談社:現状希望者全員対応可能であるため、量の見込と同数で計上 直方市:補正なし	談社:30年度実績20,839人日に対して、作業の手引きによる算出では60,186人日から54,714人日で大きな差があった。多少の増減があるものの、例年ほぼ同数で推移しているため、30年度実績を基にして算定した数値を採用。

一時預かり事業（その他）	<p>談社：子どもを見てもらえる親族・知人がいずれもない12.2%×児童人口 R2：336人 R3：332人 R4：323人 R5：319人 R6：315人</p> <p>直方市：補正なし</p>	<p>談社：各事業受入可能数で判断。 一時預かり1園2人×20日×12か月＝480人 ファミリー・サポートは援助できる会員の数（まかせて会員：61、どっちも会員：86）を考慮して算定。3,600人</p> <p>直方市：補正 一時預かり：30年度実績をもとに各年度80人で算定 子育て援助活動支援事業：各年度量の見込みから一時預かりの確保数をひいて算出</p>	
病児・病後児保育事業	<p>談社：作業の手引きより、父親または母親が休んで、かつ、病児・病後児保育を利用したいと回答したものを引いた数で算定。 R2：103人 R3：101人 R4：99人 R5：97人 R6：95人</p> <p>直方市：補正 各年度450人</p>	<p>談社：10人×300日</p> <p>直方市：補正 5人×300日</p>	<p>談社：30年度実績426人日に対し、作業の手引きによる量の見込みは8,980人日から8,325人日で大きな差が出た。「父親が休んだ」「母親が休んだ」と回答した人の中で、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と回答した人の割合が3割弱でありニーズが高くないと判断し、これらの回答を除外して算定した。 また、29年度よりひよこハウスが加わり、定員が10名に増えたことで、確保の内容を算定した。</p>
子育て援助活動支援事業（就学児）	<p>談社：小学生へのニーズ調査より小学生がファミリー・サポート・センターを希望する割合×児童の人口推計（小学校1年生から小学校6年生まで）</p> <p>直方市：補正なし</p>	<p>談社：15日×12か月</p> <p>直方市：補正なし</p>	<p>談社：手引きによる算出（5歳児を対象とした算出）では、有効回答数が1であったこと、ニーズ調査より、放課後を過ごす場所の希望として自宅や習い事などを選択した人が大多数で、ファミリー・サポート・センターで過ごすことを希望した人は0.03%程度であることを考慮した結果、利用を希望している人の割合がそのままファミリー・サポート・センターの量の見込みと考え算出。</p>
利用者支援事業	平成30年度実績を基に算出（児童人口減少傾向を考慮し、微減している）	量の見込と同数	
妊婦健康診査	平成30年度実績を基に算出（児童人口減少傾向を考慮し、微減している）	量の見込と同数	
乳児家庭全戸訪問事業	平成30年度実績を基に算出（児童人口減少傾向を考慮し、微減している）	量の見込と同数	
養育支援訪問事業	平成30年度実績を基に算出（児童人口減少傾向を考慮し、微減している）	量の見込と同数	